



与那覇岳



めだかの学校 よんでる体操集会

学校教育目標の具現化を図る方策として、十一月は、**基礎的・基本的事項の定着を図る『よく考えがんばる子』(はきはき)**を実践します。

沖縄でも秋の夜長、読書や学習に集中できる最適な季節である。読書月間で培われた静かな雰囲気の中で、家庭で培われた家庭学習の習慣をいかして、自分から進んで学習に取り組む、やらされている学習でなく、児童主体の学習、目的意識を持たせた授業展開を図ります。

勉強が解れば楽しい、自分の考えを友だちに伝えられると嬉しい、友だちや先生、家族、地域の方々に褒められるとさらに挑戦したくなる。

子育ては、悩みの連続、ではないですか。二つのキーワードを紹介します。『愛』と『公』です。『愛』とは「子どもが自分は愛されているという実感をもつ」です。『公』とは「人(友だち・先生)のために、社会(学級)のために動くという体験をする」です。学校・家庭・地域で実践しましょう。

11月学校・地域行事

- 1日「美ら島おきなわ教育の日」
- 3日(月)文化の日(公休日)
- 5日(水)県広域地震津波避難訓練
- 7日(金)村教育委員会学校訪問
- 11日(火)芭蕉布体験学習4年生
- 12日(水)地区童話・お話大会
- 低学年 男子：有銘小中
女子：慶佐次公民館
村代表：宮城杏太郎、田場羽琉
- 高学年 女子：高江小中
村代表：港川織香
- 15日(土)おきなわ家庭教育の日
- 16日(日)家庭の日・ファミリー読書
- 18日(火)校内授業研究会 6年
- 19日(水)めだかの学校⑥
- 23日(日)勤労感謝の日
- 24日(月)振り替え休日
- 30日(日)学習発表会

ある講演会で聞いた話

◇中途半端に耐える力を育てましょう

子どもの世界では、些細なことでトラブルが発生するのは、ごく自然なことです。子ども同士のトラブルでは、加害者と被害者の境は非常に曖昧です。ですから、深刻なとき以外は、白黒つけず、けんか両成敗として中途半端な状態にしておくことも必要です。私の経験では、トラブルのたびに親にかばってもらっていた子が、高学年になってから、友達との会話がもとで孤立し、挫折する様子が見られました。その子への指導の過程で、その子には、中途半端に耐える力が十分に付いていなかったことが分かりました。親が、わが子をかばってやれる期間はごくわずかです。そのわずかな期間にこそ、親も教師も、その子の心に寄り添いながら、中途半端に耐える力を育てたいものです。

「ヤーナレーフカナレー」家庭の「不易と流行」

- 「おはようございます」家族で挨拶をかわす。
- 「いただきます」「ごちそうさま」がいえる。
- 自分で使ったものは、もとの場所にかえす。
- はきものをならべることが出来る。
- 呼ばれたら「はい」の返事「ありがとう」「ごめんなさい」がいえる。



カヌー体験



学びの森もりの子キャンプ



読書月間取組：スタンプラリー